

251018 行徳町屋めぐり③ 資料

行徳の町並み特性と町屋建築

行徳まちづくり協議会

Contents

- ・行徳略史
- ・実はスゴイ！ 行徳の町並み
- ・行徳の街並み特性・建築物の特徴
- ・町屋の喪失状況
- ・「修景」の重要性
- ・「行徳景観まちづくりビジョン」について



寺社景観



町屋景観



行徳の略史

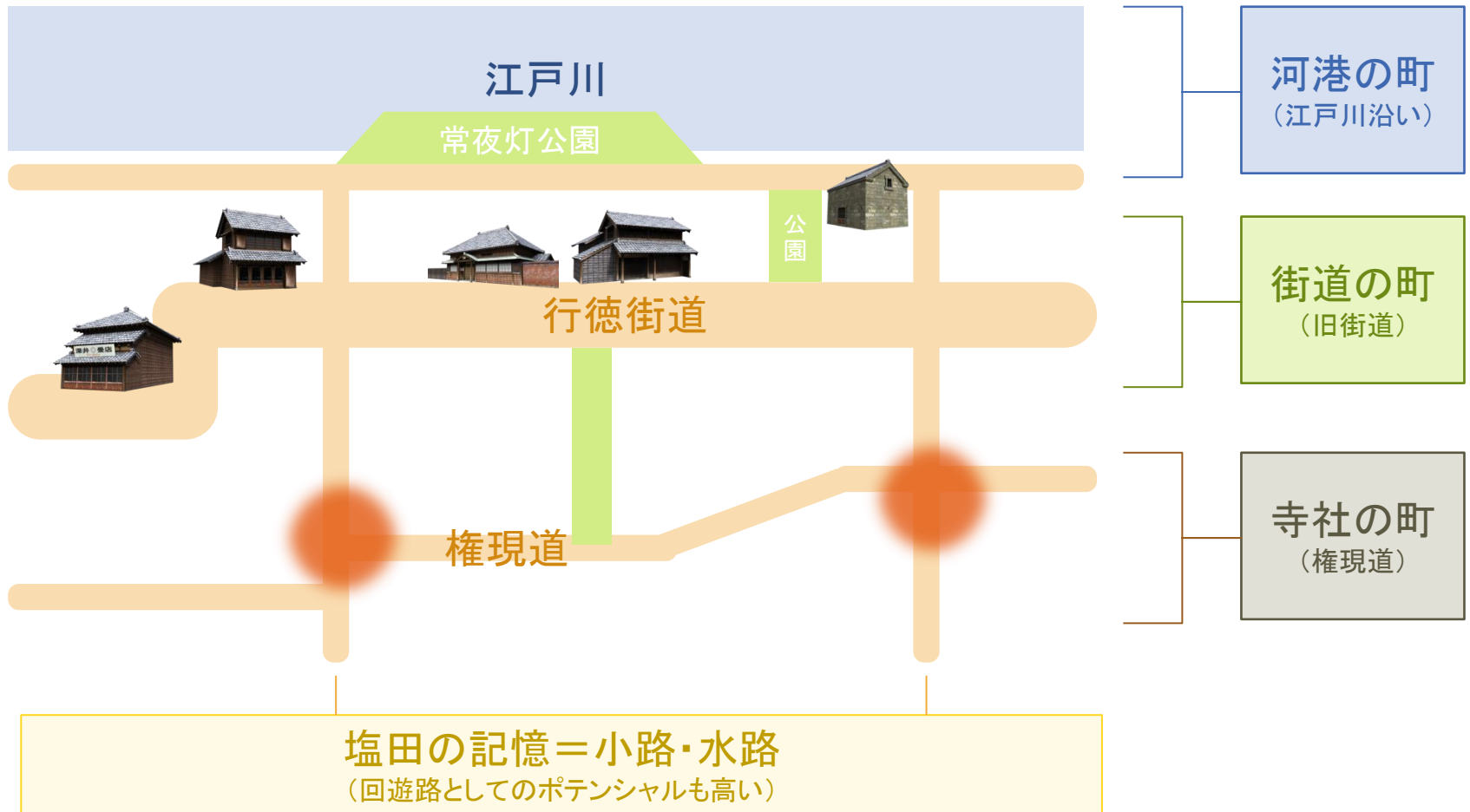
- 1372年 「行徳」の地名の初見^{かとり}(香取文書)。香取神宮の川関がおかれていた。
- 1530年頃 小田原北条氏の支配下。当時から塩を納めていたとの記録
- 江戸初期 幕領化⇒戦略物資である塩を確保すべく、手厚い保護を受ける
- 江戸後期 河川交通の要衝・成田街道の宿駅として発展。寺社も集積。
「行徳千軒 寺百軒」とうたわれるようになり、「江戸名所図会」にも描かれた。
- 明治期 寺社建築の技を生かした神輿づくりが産業化する一方、陸の孤島化が進む
江戸神輿の半数～4割が行徳製とも。
Cf.江戸川放水路・総武線
- 1955年 市川市と行徳町が合併。翌年南行徳町が合併
- 1969年 地下鉄東西線西船橋まで開通。ベッドタウンとして急速に変貌⇒現在

・明治～昭和の「陸の孤島化」により、旧市街が保全された
・高度成長期の開発圧も、主として区画整理された新市街地へ向かった
⇒東京30分圏内としては異例に、古い街並みが残った

※ 行徳の歴史の入門書としては、行徳町づくり協議会「行徳の歴史と神輿と祭り」(2022)がオススメ

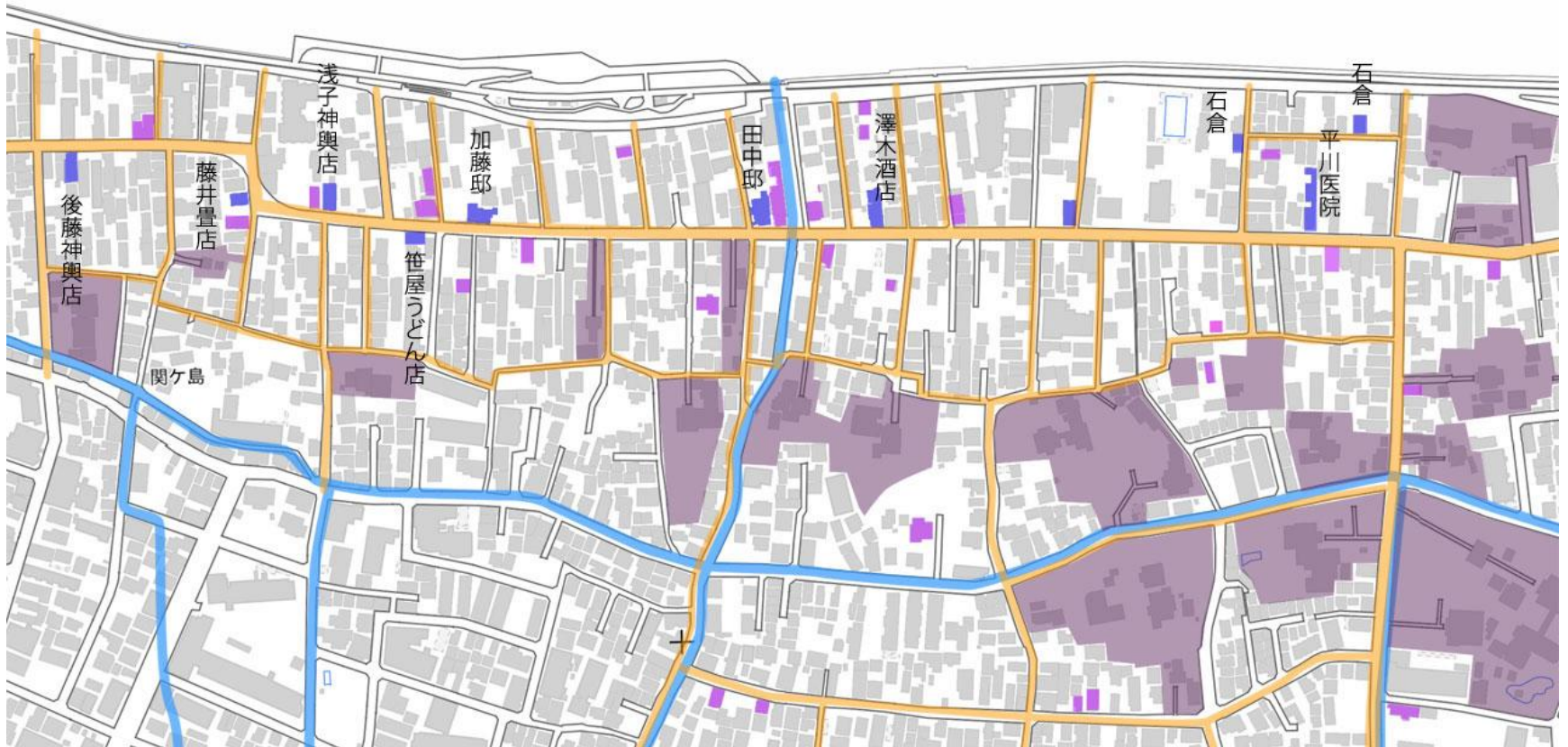
町並みを構造的に捉える

- ・江戸時代以来の道路形態がほぼそのまま残っている
- ・河港、街道集落、塩田の町…としての性質が町の形によく表れている



歴史的建造物の残存状況

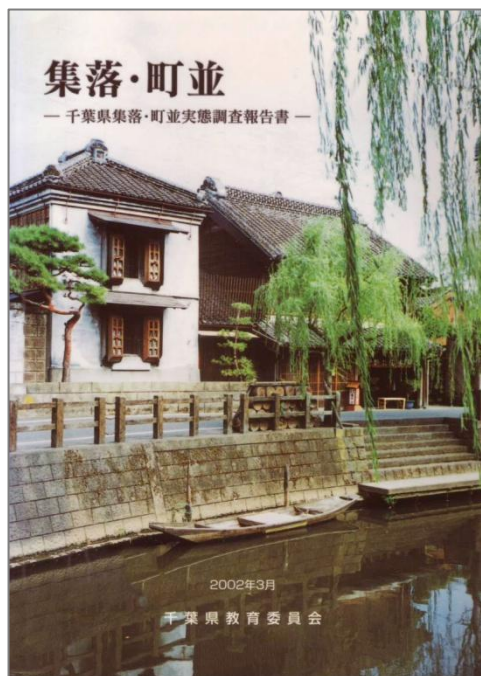
■ 歴史的建造物 ■ 要調査



出典) 行徳まちづくり協議会「行徳景観まちづくりビジョン」(2024.05)

- ・歴史的建造物(古民家)として類別されるのは、昭和25年(建築基準法)以前のもの
- ・図示範囲内で、確実なもの12棟、不確実なもの約20棟が残る

専門的にも高い評価♪



千葉県教育委員会
「千葉県集落・町並実態調査」
(2002)

頒布ナシ。市川市立図書館には
入っています。

残りが良い所として第一にあげられるのは、国の重要伝統的建造物群保存地地に選定されている佐原市佐原であろう。ほかでは、**市川市行徳**、大多喜町大多喜、八日市場市八日市場、富津市富津などが比較的広い範囲にわたって残っており... (p.14)

江戸川に沿った約2kmの町並みの(中略)多彩な商家群が特筆される (p.11)



これだけ残っているのは大したもの。行徳を見直しました！

全国町並み保存連盟：福川裕一会長

広いエリアではないが、
よくまとまって残っている。
景観まちづくりを！

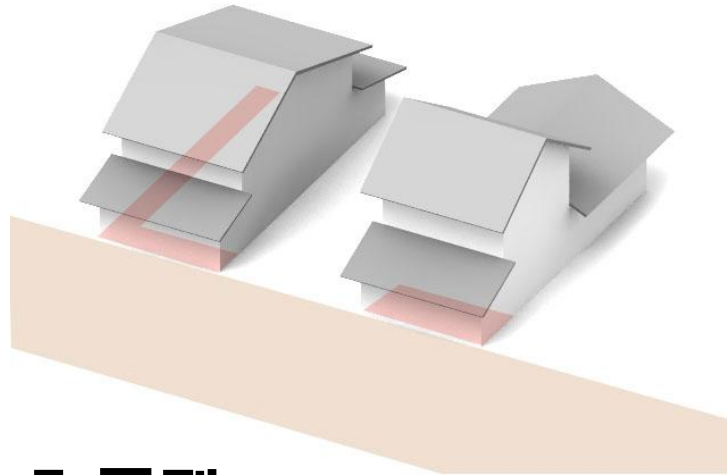
新潟大学：岡崎篤行教授



町屋ってナニ？

京町屋型

在方町型

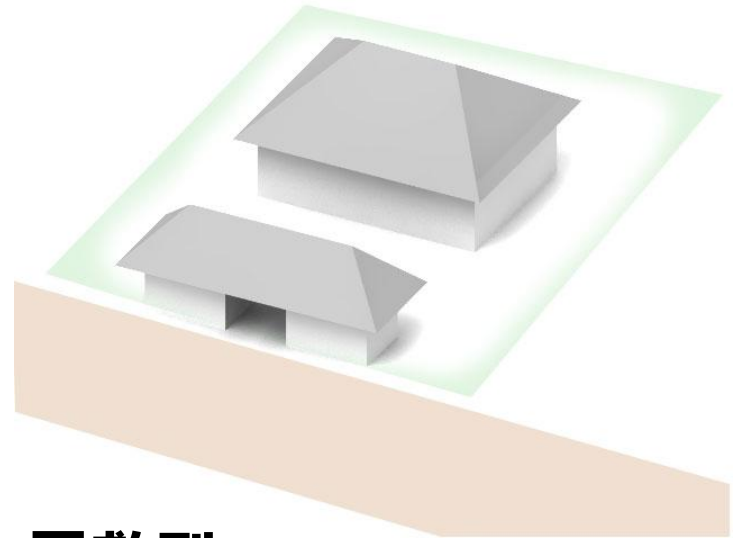


町屋型

日本の伝統的な「都市型住宅」。

- ・職住一体型。正面にミセを備える
- ・道路に面して敷地一杯に建つ
- ・間口が狭く、奥に長い
- ・関東／関西で成り立ちが異なる

本行徳を中心に街道沿いに見られる



屋敷型

農家・武家住宅などに見られる形式

- ・道路に直接面さない
- ・敷地は一定の広がりを持つ
- ・職住分離
- ・全国的に多様なバリエーション

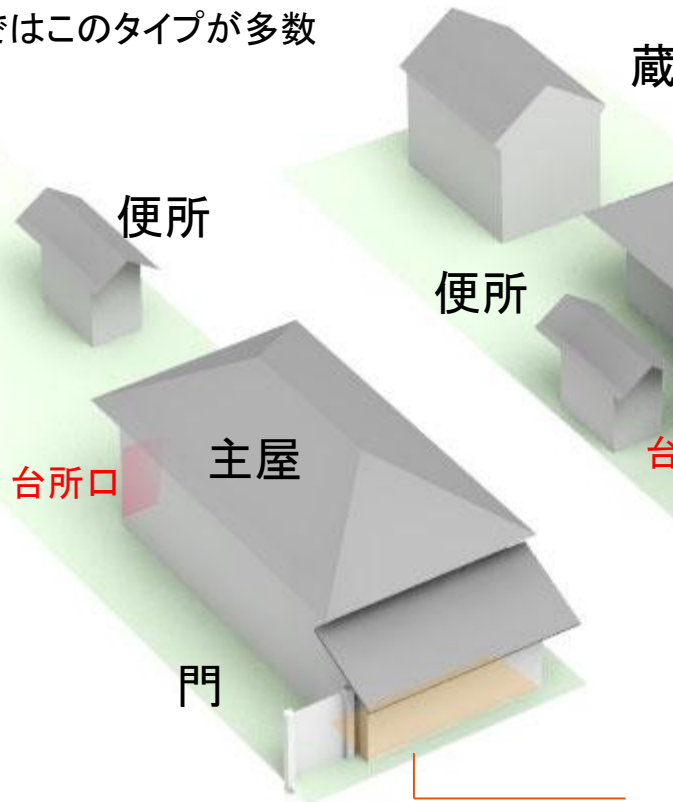
裏通り、本塩・妙典に見られる

※ 町屋を含む日本の建築史の入門書としては 光井渉『日本の伝統木造建築 その空間と工法』(市ヶ谷出版社 2016)などがオススメ

行徳の町屋 模式図

一階型

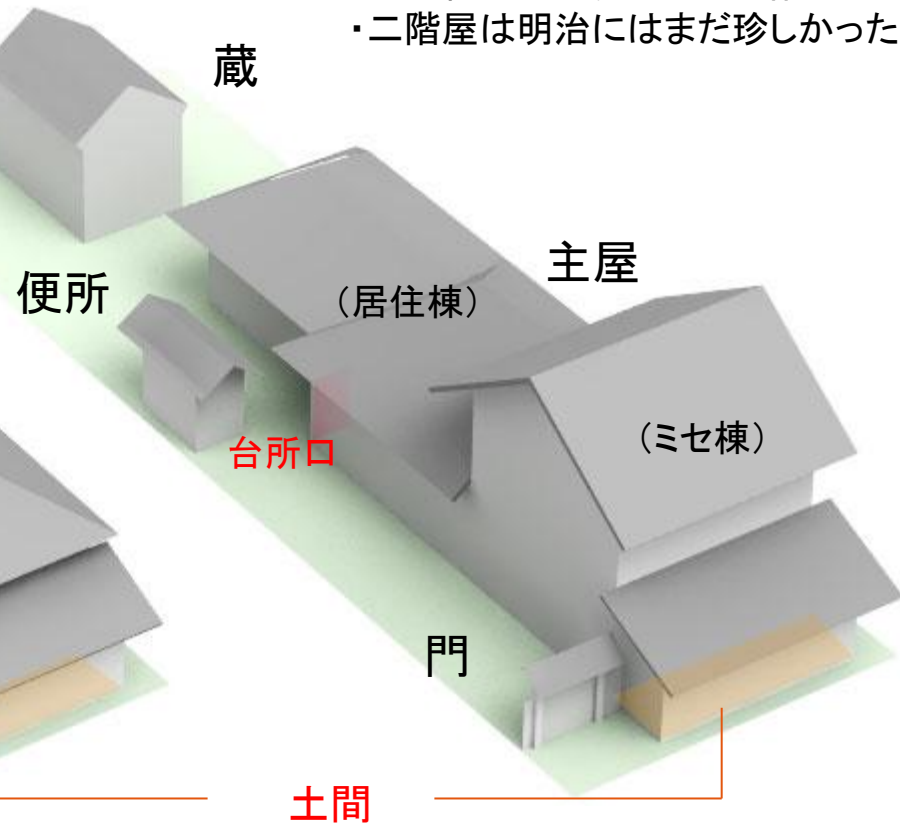
- ・農家建築が町屋化した形態？
- ・昭和初期辺りまではこのタイプが多数



大西基之氏提供

二階型

- ・ミセ部が独立・発達して二階化
- ・二階屋は明治にはまだ珍しかったとの談



- ・基本的には関東の在郷町でよく見られるスタイル
- ・千葉県特有の建築様式として「寄棟・妻入り型(1階)」がかつては多く見られた

形態の多様性

寄棟一階型 妻入り



千葉県特有の建築様式で、他の都道府県ではあまり見られない。

寄棟一階型 平入り



旧笹屋うどん。かつてはそれなりの数があったようだが、、、

平入2階型A



浅子御輿、後藤神輿、篠田邸ほか、いかにも関東型というマッチョな造形

平入2階型B



澤木酒店、田中邸、旧中島米店ほか。低く二階を構えた町屋

混合形態



寄棟・妻入り型町屋が高層化したような独特の形態



寄棟・平入型町屋が二階化した形態。10年ほど前まではもう数棟あった

洋館



平川医院。良質な洋風建築は日本の街並みにもマッチする。

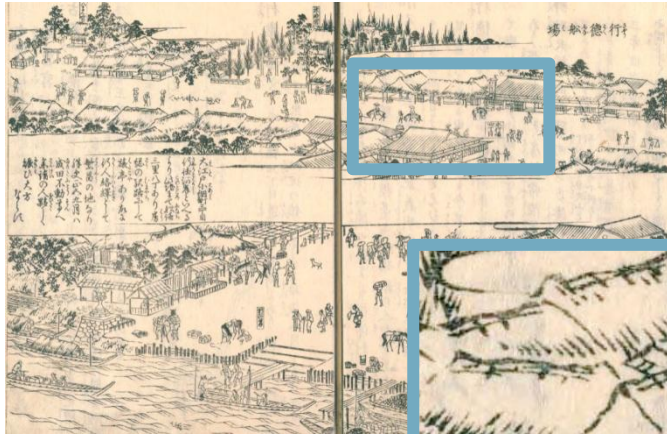
近代住宅



加藤邸。かつての塩問屋で座敷棟が直接街道に面している。凝った建物

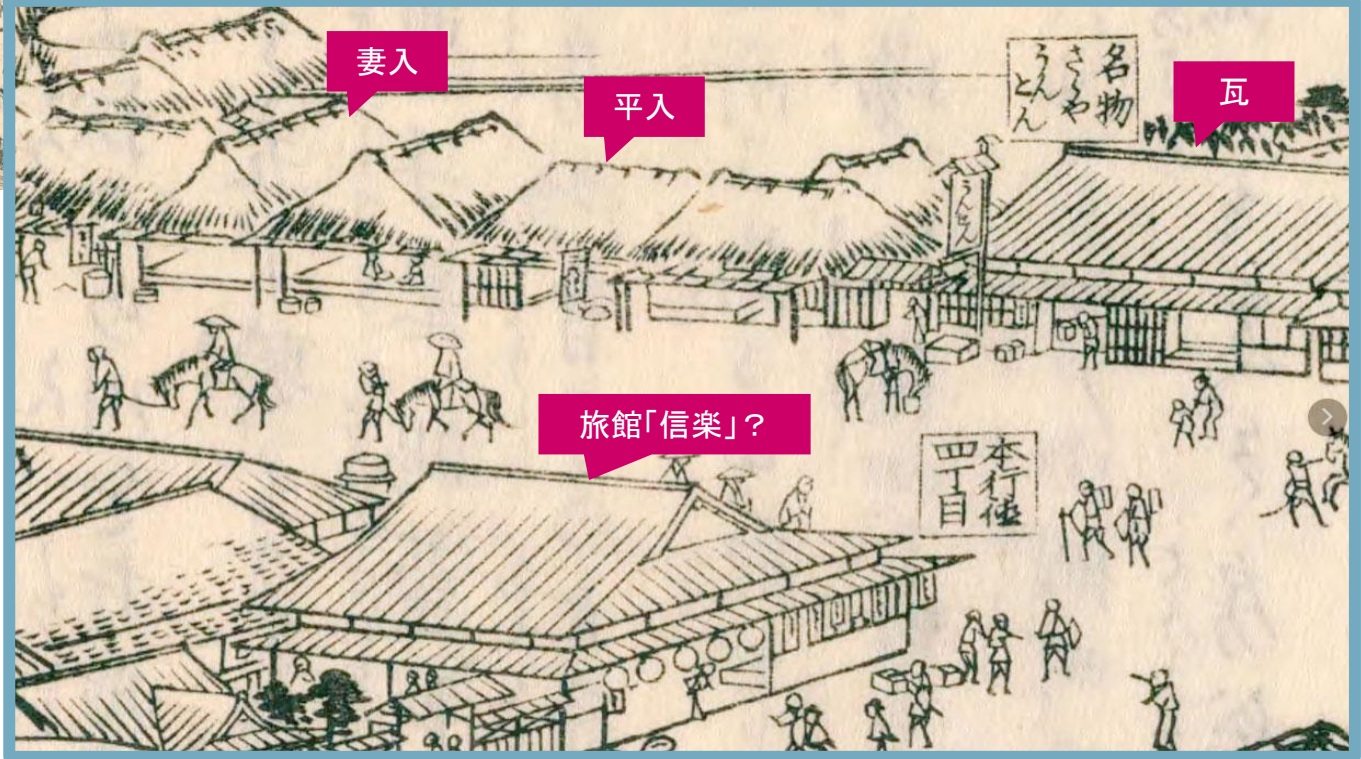
- ・建築形態が多様（江戸～昭和初期まで。在郷町らしい特徴といえる）
- ・狭いエリアに集中して残る（町歩きの観点からは有利な特徴）

江戸時代に基本形が成立



国立国会図書館「江戸名所図会 7巻」(1834)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/2563399/1/8>



- 妻入り／平入り／茅葺／瓦葺など、多様な形態が既に混在していたことがわかる
- 神輿屋のような、本二階の建物はどうもなさそう？

失われた建造物（2010-2019）

1



田中家、澤木家のプロトタイプ？ 寄棟二階屋の希少例

2



3



4



3～5、8 本来一番多かった「寄棟・妻入り」形式がほぼ消失

5



6



7



8



2010-2019年は、伊勢宿～関ヶ島での喪失が特に多かった

失われた建造物（2020-2025）

9

付属屋フルセット



10

3D化



11

3D化



12



参）旧南行徳町エリアでの喪失

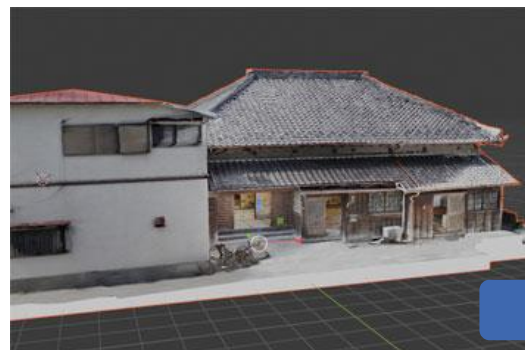
市川市景観賞



おそらく最大の町屋



名主級



3D化

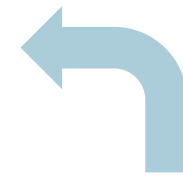
論点

- ・このペースで行くと、2-30年後には文化財指定を受けたもの以外は多分残らない
- ・「旧街道と歴史的町並みゾーン」指定から20年経つが、景観は向上したか？

本日見学するお宅



Now!!



Before



- ・旧「ミセ」部を見学させていただきます
- ・今回は特別に開けていただきますが一般の住居であること、ご配慮ください

修景の可能性



修景の可能性



ここまで出来る（多分） cf.新潟県村上市

2003



2023



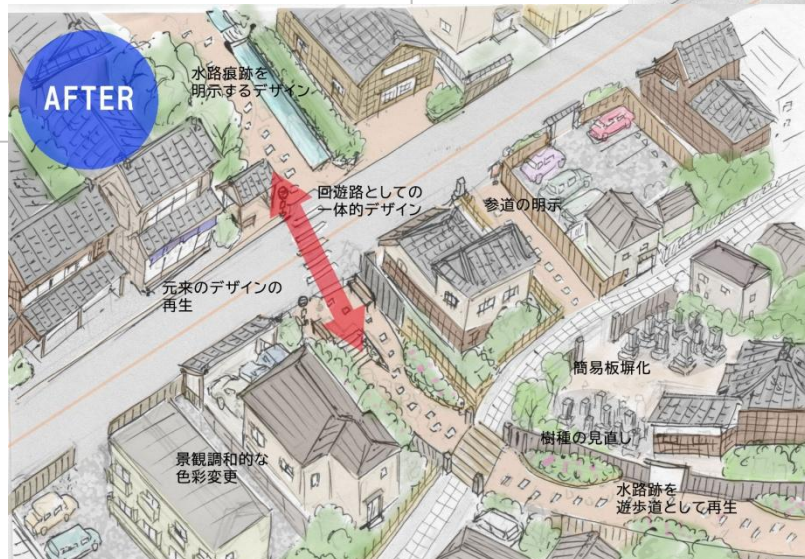
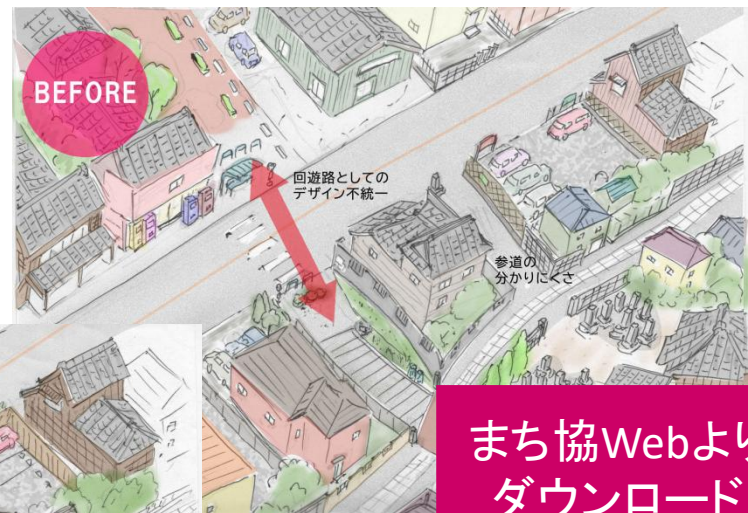
行徳景観まちづくりビジョン

- ・折角よい街並みが残っている行徳だが、現状、景観地区等の指定はない
- ・住民サイドからの景観まちづくりの提案・実行プラン



Contents

- 1) 本ビジョンの位置づけ・これまでの経緯
- 2) 本ビジョンにおける「景観まちづくり」の定義
- 3) 行徳「らしき」とは？
- 4) 行徳の景観特性
- 5) 具体的な修景提案



まち協Webより
ダウンロード
できます

